

安全データシート

N'-(2-メチル-4-クロロフェニル)-N,N-ジメチルホルムアミジン塩酸塩

改訂日: 2024-01-29 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: N'-(2-メチル-4-クロロフェニル)-N,N-ジメチルホルムアミジン塩酸塩
CB番号	: CB5749609
CAS	: 19750-95-9
同義語	: N'-(2-メチル-4-クロロフェニル)-N,N-ジメチルホルムアミジン塩酸塩

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 農薬
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

2007/2/20 (環境に対する有害性についてはH18.3.31)、GHS分類マニュアル(H18.2.10 版)を使用

物理化学的危険性

金属腐食性物質 分類できない

有機過氧化物 分類対象外

酸化性固体 分類できない

酸化性液体 分類対象外

水反応可燃性化学品 分類対象外

自己発熱性化学品 分類できない

自然発火性固体 区分外

自然発火性液体 分類対象外

自己反応性化学品 分類対象外

可燃性固体 分類できない

引火性液体 分類対象外

高圧ガス 分類対象外

支燃性・酸化性ガス類 分類対象外

可燃性・引火性エアゾール 分類対象外

可燃性・引火性ガス 分類対象外

火薬類 分類対象外

健康に対する有害性

吸引性呼吸器有害性 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 区分2(皮膚)

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分2(膀胱 腎臓 血液 神経系)

生殖毒性 分類できない

発がん性 区分2

生殖細胞変異原性 区分外

皮膚感受性 分類できない

呼吸器感受性 分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2B

皮膚腐食性・刺激性 区分3

急性毒性(吸入:ミスト) 分類対象外

急性毒性(吸入:粉じん) 分類できない

急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない

急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外

急性毒性(経皮) 区分5

急性毒性(経口) 区分3

環境に対する有害性

水生環境慢性有害性 分類できない

水生環境急性有害性 分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル

GHS06	GHS08	GHS09

注意喚起語

危険

危険有害性情報

長期又は反復ばく露による皮膚の障害のおそれ

血液、神経系、腎臓、膀胱の障害のおそれ

発がんのおそれの疑い

眼刺激

軽度の皮膚刺激

皮膚に接触すると有害のおそれ

飲み込むと有毒

注意書き

適切な保護眼鏡、保護面を使用すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

使用前に取扱説明書を入手すること。

【安全対策】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

【廃棄】

施錠して保管すること。

【保管】

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

ばく露した時、又は気分が悪い時は、医師に連絡すること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

皮膚に付着した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。

【応急措置】

取扱い後はよく手を洗うこと。

粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

適切な個人用保護具を使用すること。

3. 組成及び成分情報

化学名又は一般名	: N -(2-メチル-4-クロロフェニル)- N,N -ジメチルホルムアミジン塩酸塩
別名	: 塩酸クロルフェナミジン (Chlorfenemidine hydrochloride)、塩酸クロルジメホルム (Chlordimeform hydrochloride)、4-クロロ-N-[(N,N-ジメチルアミノ)メチリデン]-2-メチルアニリン一塩酸塩 (4-Chloro-N-[(N,N-dimethylamino)methylidene]-2-methylaniline monohydrochloride)
分子式(分子量)	: C ₁₀ H ₁₃ ClN ₂ · ClH (233.14)
CAS番号:	: 19750-95-9
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	: (3)-277
分類に寄与する不純物及び安定化添加	: データなし
濃度又は濃度範囲	: 1

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

多量の水と石鹼で洗うこと。

目に入った場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

直ちに医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症状

経口摂取：紫色(チアノーゼ)の唇や爪、紫色(チアノーゼ)の皮膚、頭痛、息苦しさ、意識喪失、嘔吐、脱力感、呼吸停止。他の症状については「吸入」参照。

皮膚：発疹

吸入：血尿、背痛、口中の甘味、腹痛、し眠、吐き気。「経口摂取」参照。

最も重要な兆候及び症状

データなし

応急措置をする者の保護

炭化水素系溶剤を含む製剤の場合、吐かせてはならない。

医師に対する特別注意事項

データなし

5. 火災時の措置

消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状放水

特有の危険有害性

激しく加熱すると燃焼する。

摩擦、熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

密閉された場所に立入る前に換気する。

関係者以外の立入りを禁止する。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

回収・中和

漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化方法・機材

水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。

二次災害の防止策

プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

取扱い後はよく手を洗うこと。

眼との接触を避けること。

粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

皮膚との接触を避けること。

飲み込みを避けること。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

使用前に使用説明書を入手すること。

接触回避

『10.安定性及び反応性』を参照。

保管

技術的対策

特別に技術的対策は必要としない。

混触危険物質

『10.安定性及び反応性』を参照。

保管条件

容器を密閉して保管すること。

施錠して保管すること。

容器包装材料

データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産衛学会(2007年版)

未設定

ACGIH(2007年版)

未設定

設備対策

ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。

衛生対策

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状 固体

色 無色

臭い データなし

pH データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

225~227℃ : ICSC (J) (1994)

log Pow = 2.89 (推定値) : PHYSPROP Database (Access on Oct. 2008)

水 : 1580mg/L (25℃) (推定値) : PHYSPROP Database (Access on Oct. 2008)

水 : よく溶ける (20℃) : ICSC (J) (1994)

データなし

データなし

20℃での蒸気/空気混合気体の相対密度 : 1(空気=1) : ICSC (J) (1994)

8.03(空気=1) : ICSC (J) (1994)

0.00003Pa (20℃) : ICSC (J) (1994)

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

225~227℃ : ICSC (Access on Oct. 2008)

融点・凝固点

225~227℃ : ICSC (Access on Oct. 2008)

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

引火点

データなし

自然発火温度

データなし

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

データなし

蒸気圧

0.00003Pa (20℃) : ICSC (J) (1994)

蒸気密度

20℃での蒸気/空気混合気体の相対密度 : 1(空気=1) : ICSC (J) (1994)

8.03(空気=1) : ICSC (J) (1994)

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

データなし

溶解度

水 : 1580mg/L (25℃) (推定値) : PHYSPROP Database (Access on Oct. 2008)

水 : よく溶ける (20℃) : ICSC (J) (1994)

オクタノール・水分配係数

log Pow = 2.89 (推定値) : PHYSPROP Database (Access on Oct. 2008)

分解温度

225~227℃ : ICSC (J) (1994)

粘度

データなし

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる

危険有害反応可能性

水の存在下で、多くの金属を侵す。

加熱すると分解し、塩化水素、窒素酸化物などの有毒で腐食性のヒュームを生じる。

避けるべき条件

加熱

混触危険物質

水、金属

危険有害な分解生成物

塩化水素、窒素酸化物などの有毒で腐食性のヒューム

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットにおける経口LD50データ(305, 325, 330 mg/kg(EHC199(1998)), 265, 355 mg/kg(JMPR206(1972)), 225 mg/kg(RTECS(2003)))に基づき、計算式を用いて算出した値(LD50 = 268 mg/kg)から、区分3とした。*本物質のベース化合物であるN-(2-メチル-4-クロロフェニル)-N,N-ジメチルホルムアミジン(ID1357, CAS: 6164-98-3)の情報も参照のこと。

経皮

ラットにおける経皮LD50 = 4 g/kg(RTECS(2003))から区分5とした。

吸入

吸入(粉じん): ラットにおける吸入LC50(1hr)値>5.8 mg/L(JMPR206(1972))(4時間換算値、蒸気の場合>2.9 mg/L、ミスト・粉じんの場合>1.45 mg/L)とのデータしかなく、データ不足で分類できない。

吸入(蒸気): ラットにおける吸入LC50(1hr)値>5.8 mg/L(JMPR206(1972))(4時間換算値、蒸気の場合>2.9 mg/L、ミスト・粉じんの場合>1.45 mg/L)とのデータしかなく、データ不足で分類できない。

吸入(ガス): GHSの定義における固体である。

皮膚腐食性・刺激性

ウサギ皮膚をわずかに刺激するとの記述(EHC199(1998))から、区分3とした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギ眼を用いた標準ドレイズ試験の結果、“Mild(軽度の)”刺激性を示したとの記述がある(RTECS(2003))ことから、区分2Bとした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性:ヒトに対して、「反復してあるいは長期にわたり皮膚に接触すると、皮膚炎を起すことがある」との記述がある(ICSC(J)(1994))が、アレルギー反応に起因したものと確認できず、データ不足で分類できないとした。なお、本物質のベース化合物(ID1356, CAS: 6164-98-3)では、分類できないとされている。

生殖細胞変異原性

マウスを用いた相互転座試験および優性致死試験、マウス精母細胞を用いた染色体異常試験、マウススポット試験、チャイニーズハムスター骨髄小核および染色体異常試験の陰性結果がある(EHC199(1998))ことから、区分外とした。なお、Ames試験およびマウスリンフォーマ試験は陰性と報告されている(EHC199(1998))。

発がん性

マウスにおいて、混餌投与により皮下組織、後腹膜、内臓(腎臓、肝臓、脾臓)に悪性血管内皮腫が生じたとの報告(EHC199(1998)), JMPR431(1978))があることから、区分2とした。なお、本物質のベース化合物(ID1356, CAS: 6164-98-3)は、IARCにおいて“Group 3”に分類されていることから、区分外とされている。

生殖毒性

データなし なお、本物質のベース化合物(ID1356, CAS: 6164-98-3)では区分外とされている。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性

データ不足のため分類できない。

水生環境慢性有害性

データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

IMOの規制に従う。

航空規制情報

ICAO/IATAの規制に従う。

UNNo.

2761

ProperShippingName.

Pesticide, solid, toxic, N.O.S.

Class

6.1

国内規制

陸上規制情報

該当しない

海上規制情報

船舶安全法の規制に従う。

航空規制情報

航空法の規制に従う。

特別安全対策

重量物を上積みしない。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

移送時にイエローカードの保持が必要。

緊急時応急措置指針番号

151

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法

劇物(指定令第2条)(政令番号:99-2)

船舶安全法

毒物類・毒物(危規則第3条危険物告示別表第1)

毒物類・毒物

航空法

毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)

毒物類・毒物

港則法

毒物類・毒物

道路法

車両の通行の制限(施行令第19条の13、日本道路公団公示)

16. その他の情報

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

参考文献

【14】 Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

【13】 IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【12】 IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【11】 HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【10】 有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【9】 ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【8】 eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>

pageID=0&request_locale=en

【7】 ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【6】 ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【5】 カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【4】 NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP) <https://www.nite.go.jp/>

【3】 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【2】 化学物質審査規制法 (化審法) <https://www.env.go.jp>

【1】 労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。